デイサービスセンター イロアイ ～リハビリテーション&ケア～
Iroai Rehabilitation & Care

【事業所紹介】

◇デイサービスセンターイロアイ：2019年（平成31年）4月開設

- ・リハビリテーション特化型デイサービス（通常規模）
- ・営業日：月～土
- ・定　員：40名
- ・平均利用数　約30名/日
- ・平均要介護度　2.5

◇職　員：18名（常勤・パート総数）

- ・年　齢：25～83歳
- ・介護福祉士5名　実務者研修1名　介護補助1名
  理学療法士6名　作業療法士2名　言語聴覚士1名
  看護師2名

【施設設立の目的と組織風土の構築】

●設立の目的

・介護をする側、介護をされる側の双方に、身体的負担の少ないノーリフティングケアを、当たり前に実践できるように、立ち上げ当初から設備を整え、その環境をベースに、全従業員がノーリフティングケアを実践できるよう育成したい。

・地域のデイサービスから、色々な事業、医療も含めて、ノーリフティングケアの情報の発信や啓発をしたい。

・腰痛による介護職の離職防止を図り、介護の担い手減少にも貢献したい。

●組織風土の構築

設計時より、必要な福祉機器設置を図面に落とし込み、「当たり前にモノがある状態」、「それを使うことが当たり前」の、環境を作ることで、スタンダードなケアとし、ノーリフティングケアを職員に体感、理解してもらう。そして、ケアの場面（ケア技術）ではなく、働き方に全てに「ノーリフティングポリシー」を、それを「組織風土」として構築できるよう積み上げたい。

【デイサービスイロアイ　腰痛予防指針】

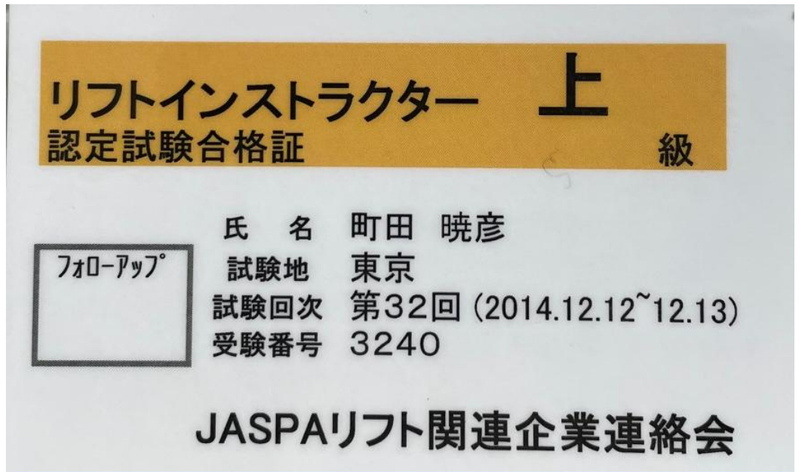
厚生労働省の保健衛生業における腰痛予防対策として
株式会社イロアイは腰痛予防対策指針に準じ

①作業環境の整備

②作業管理の整備

③健康管理の整備

④労働災害の防止



リフトインストラクター上級取得

＋

労働安全衛生第1種取得

①～④を指針として腰痛予防を目的に取り組む事とします。
職員が安全で安心して働ける環境作りと、それをベースに利用者も安全で、
安心したサービスを受けられる環境を作ります。

【施設の環境整備及び配置図】

【福祉用具・機器】

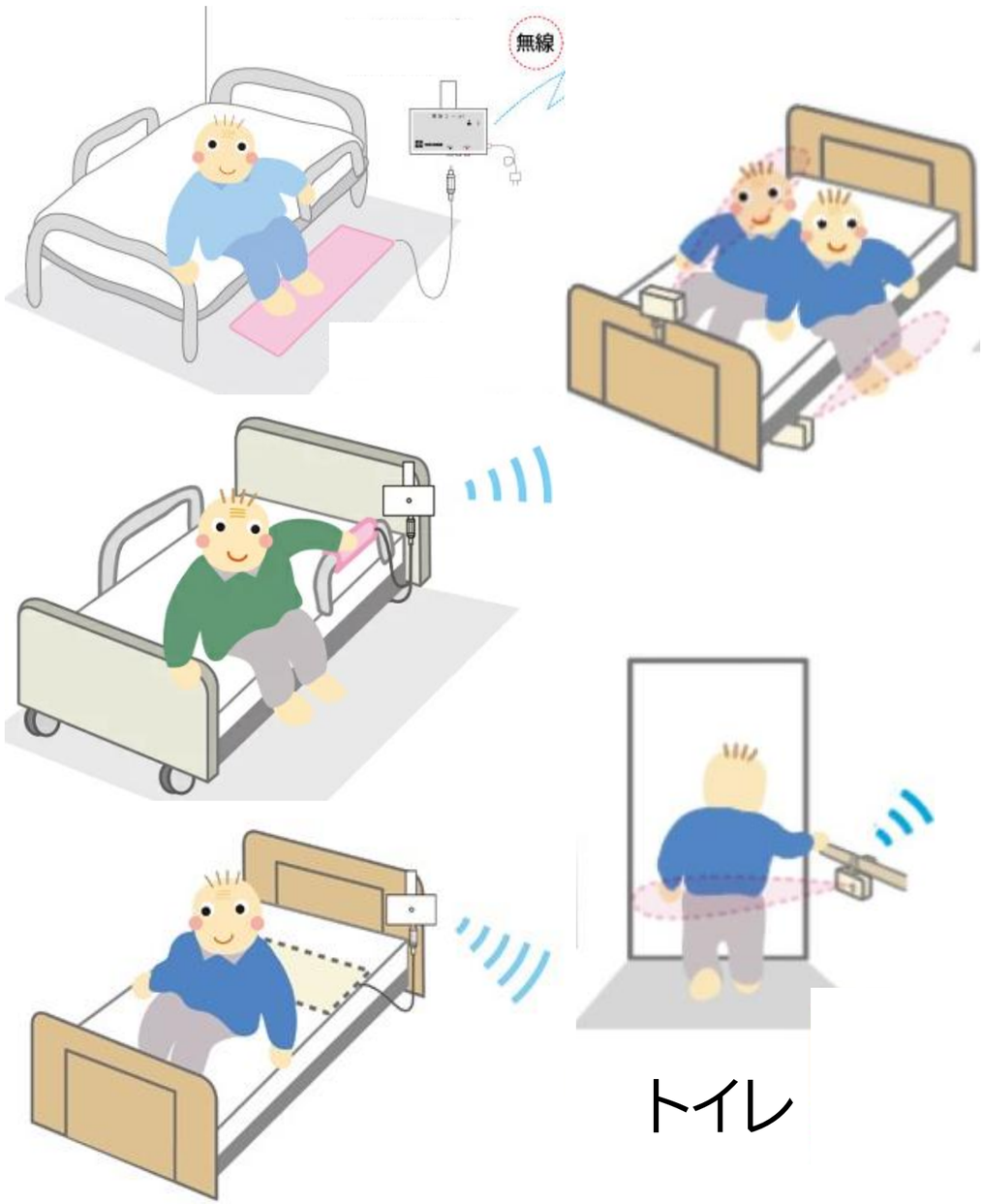
PUSH

FRONT

QOLA

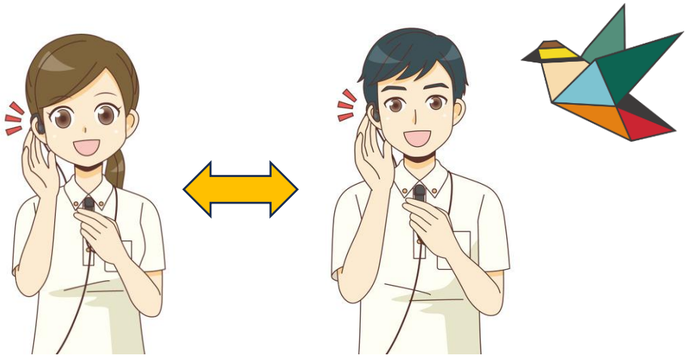
SOFIA
molton

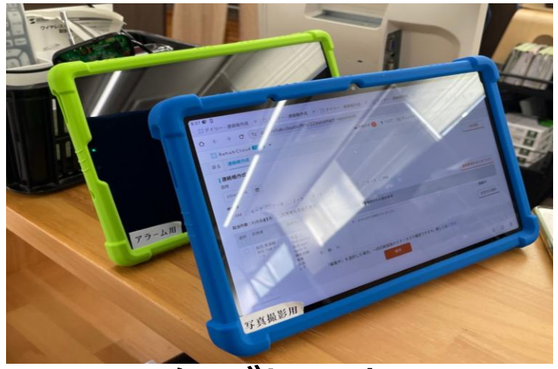
ICT導入



トイレ

インカム

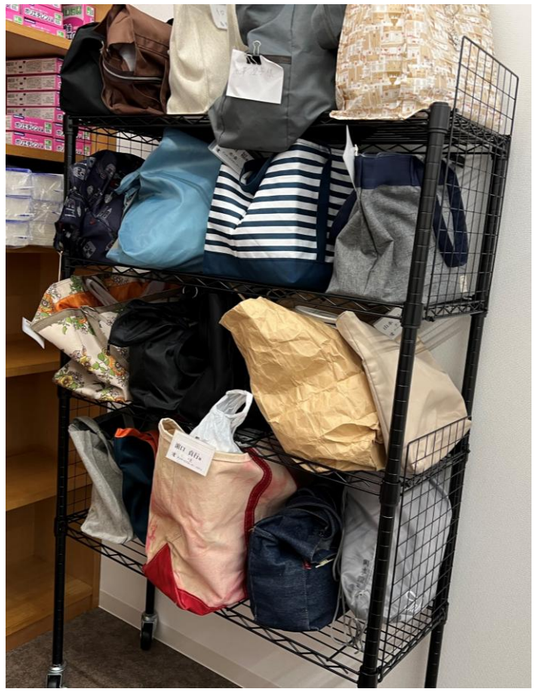




タブレット

コール

安全対策としてカメラ設置



荷物の運搬は
キャスター付きラック

椅子の出し入れ運搬

消耗品の補充

ウォーターベッドと車椅子の移乗
時に使用する台

6Sの定義

1S	整理	必要でないものは処分する(捨てる)
2S	整頓	必要なものがすぐに使えるようにする
3S	清掃	汚れの原因を改善し、職場を綺麗に保つ
4S	清潔	整理、整頓、清掃を維持する
5S	躾け	決められたことを守る習慣をつける
6S	安全	1S～5Sができれば安全につながる

【組織図　担当者】

責任者
町田暁彦

【委員会】

・総 括 ： 町田暁彦（理学療法士）・土居内佳奈（管理者・介護福祉士・マイスター）
・福祉用具管理・教育担当 ： 町田暁彦・健康管理：町田暁彦・土居内佳奈
・アセスメントプランニング担当 ： 土居内佳奈、担当リハスタッフ

介護

看護

リハビリ

【委員の役割】

担当者	役割
総括 マイスター	・ノーリフティングの普及と定着 ・腰痛予防対策推進のための企画と運営 ・会のとりまとめと管理者への報告
教育	・教育体制と計画の立案 ・目的と必要性の理解と共通認識化を混ざした教育 ・リスク管理、現場指導者の育成 ・他担当と連携し調査後の対策立案や結果の確認 ・現場指導者の育成 ・次期候補者の育成
健康管理	・職員の健康管理の実施 ・腰痛調査の実施と分析（年１回） ・腰痛調査の分析結果を他担当と共有し対策の立案と結果の確認、記録を行う
アセスメントプランニング	・利用者のケアプランをもとにノーリフティングの視点を加えて立案化する ・サービス担当者会の日程に沿ってプランニングする ・必要に応じケアマネや別事業所へ情報共有を行う
福祉用具 管理・環境整備	・ノーリフティングに必要な福祉用具の管理 （種類、数、設置場所、使用利用者の情報を集める） ・福祉用具のメンテナンスや使用方法を周知する ・デイサービス全体の設備や配置環境、整理整頓等の改善を行う

【組織体制】

取組体制・活動準備

1. 改善活動の準備
2. 現場の課題の見える化
3. 実行計画を立案
4. 改善活動への取り組み
5. 改善活動の振り返り
6. 実行計画の練り直し

・事業所全体で取組むための
「ノーリフティング宣言」
目的を決めて取り組みを全職員と共有
・ノーリフティングは労働安全の取組み、
代表（管理者）自らが職員と対象者を守る観点で、抱え上げなどのケアや業務をさせてはいけないことを理解し取組む

腰痛予防対策チーム（委員会）の役割

リスクアセスメントの実施 ➡ 職員の腰痛健康調査、対象者のアセスメント、業務のリスク把握

リスク低減策の立案とその評価 ➡ 環境調整（工夫・改修・福祉用具の使用）、身体の使い方など働き方を変える、業務の見直し

福祉用具の使用などに関する研修の企画と実施 ➡ 教育体制の確立

体制整備におけるPDCA

1. 改善活動の準備
2. 現場の課題の見える化
3. 実行計画を立案
4. 改善活動への取り組み
5. 改善活動の振り返り
6. 実行計画の練り直し

・課題に対しPDCAにて、体制作りを仕上げていく
・それぞれの課題に対して、何をすべきかをあげていく

・ノーリフティングケアと現状を比較し
・期間を定め目標を立案

・目標に向けて【計画】を具体的に立案（P）
・計画を実施（D）
・実施内容を評価（C）
・問題、改善点があれば改めて計画を練り直し、改善（A）

「ノーリフティングマネジメント研修」資料より

【腰痛調査：年１回　調査方法：簡易腰痛調査票等を使用】

簡易腰痛調査票　【所属　　氏名　　】

1．腰痛はありますか？
- □ 常に痛い、またはよく痛みがある
- □ 時々痛い
- □ 痛みまでは感じないが腰が疲れやすい
- □ 今は痛みはないが以前痛めたことがある
- □ 痛くない

※痛みに対して詳しく（治療など対策はしているかなど）

2．腰のほかに痛みはありますか？
- □ あり
- □ なし

※「あり」と答えた方にお尋ねします。
どこに、どのような痛みがありますか？

3．疲労感はいかがですか？
- □ とても疲れやすい。休んでも疲れが抜けない
- □ 疲れやすいが休めば抜ける
- □ 以前と比べて疲れやすくなった
- □ 問題を感じない

※気になることがありましたらご記入ください。

4．精神的な疲労はいかがですか？
- □ 気持ちが沈んで仕事をするのもしんどい
- □ 気持ちが沈みがちだが仕事には支障はない
- □ 特に問題は感じない
- □ 楽しく仕事ができている

※気になることがありましたらご記入ください。

（一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク編：普及推進委員用テキスト　ノーリフト®ケア　マネジメントマニュアル．組織における腰痛予防対策．ナレッジソース；2019．p.19.）

① 腰痛はありますか？

程度	人数/人中	対応策
常に痛い、よく痛みがある		
時々痛い		
腰が疲れやすい		
腰痛経験あり		
痛くない		

② 腰のほかに痛みはあります

程度	人数/人中	対応策
あり		
なし		
腕		
膝		
その他		

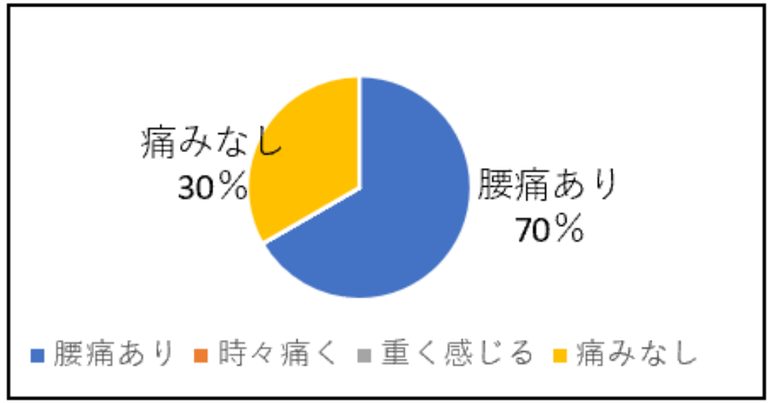
③ 疲労感はいかがですか？

程度	人数/人中	対応策
とても疲れやすい		
疲れやすいが休めばよい		
以前に比べて疲れやすい		
問題なし		

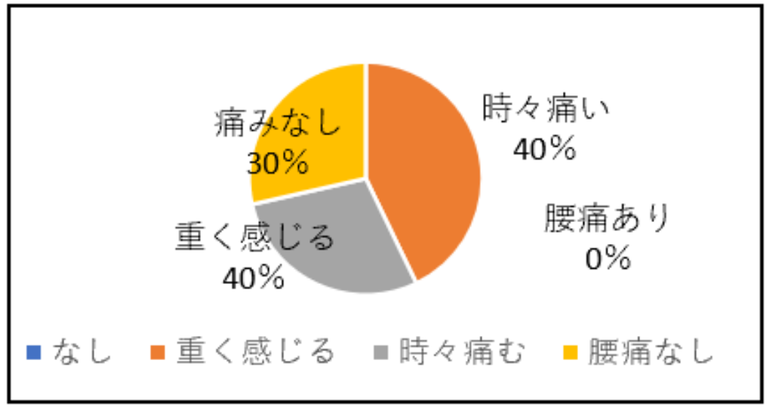
④ 精神的な疲労はいかがですか？

程度	人数/人中	対応策
気持ち⇩仕事しんどい		
気持ち⇩仕事に影響なし		
特に問題なし		
楽しく仕事できている		

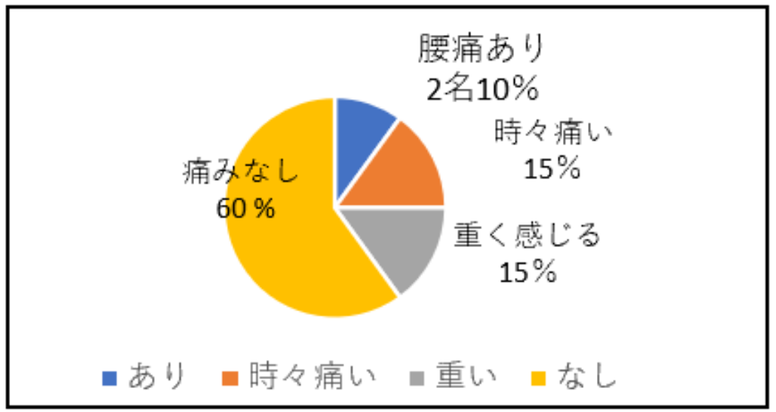
【腰痛調査結果推移：2022～2024年／年・1回】



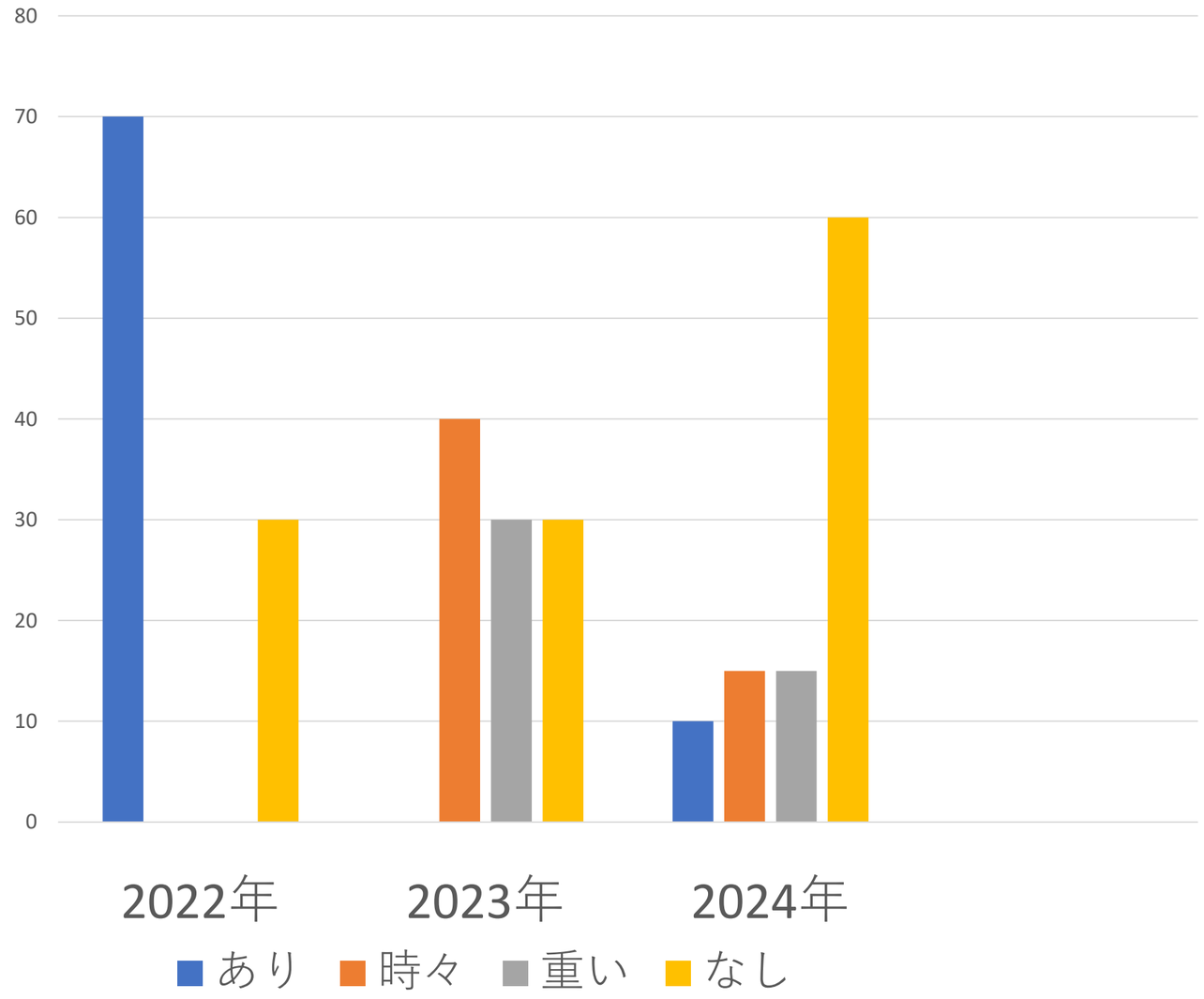
2022年



2023年



2024年



【リスクマネジメント体制】

	流れ
リスクの報告	・2回/日（AM・PM） ↕ ・管理者への報告 ・セラピスト間、看護師、介護職員とのミーティング
対策・対応	・介護主任や管理者及び担当セラピストや主任が受けた報告を分析し、対応策を検討 ↓ ・責任者に報告 ↓ ・周知と実施、期間の設定 ↓ ・結果・効果の確認
定期でのリスク調査票での聞き取り	・身体的につらいと感じる業務はなんですか？ ・身体的につらいと感じる業務はなんですか？ ・危険に感じる業務はありますか？

【リスク把握調査のまとめ】（2024年4月～10月）

1. 身体的につらいと感じる業務(直接的なケア以外)は？

・スライディングボードを使用しての車いすとウォーターベッド間の移乗
・一人で対応しないといけない業務がタイミング的にかさなったとき
・立ち座りやかがんで行う作業が多い業務
・沢山の介助作業があると気持ちに焦りがあり、疲労感が増す
・中腰での介助の際に屈んでしまうことで腰への痛みが出やすい

2. 身体的にきついと思う利用者への介助は？

・車いすから椅子やベッドなどの移り換えるとき
・膝折れリスクがある方の歩行器歩行の介助
・転倒リスクが高い介助量が多い方の歩行介助
・姿勢の保持が自力困難な方のベッドでの更衣やおむつ交換などを
・一人で行うのはきつく感じる時がある
・立位介助や歩行介助
・かがんだ姿勢での介助
・介助量のある方の利用が多いとき
・体重のかかった状態で支えていると上肢に怠さや脱力感が出る

3. 危険に感じる業務はありますか？

・介助量が多い方の移乗、トイレ、入浴介助
・トイレでテープ止めおむつを使用している方の排泄介助
・浴槽へのまたぎ動作、浴室までの移動
・狭い道の運転
・上肢で利用者を支えきれないこと
・座位保持不安定な方の移乗介助や立位介助
・社用車の運転

【リスク低減対応】

検討日	令和6年10月17日(木)17:00	記録:町田
検討内容	・座位保持不安定な方の移乗介助 スライディングボードを使用しての車いすとウォーターベッド間の移乗	報告日:令和6年9月2日 報告者:S(介護職)
報告内容	車椅子とウォーターベッド(高さ調整困難)との高さが合っていないため、ボードを使用しずらい。	
対応	車椅子用の踏み台を作成し、座面の高さをウォーターベッドに合わせられ、ボードを使用しやすくなり、身体的負担や事故の軽減を図る。	
振り返り	日時:令和6年10月30日(水) ボードを使用することで移乗は安全に行い易くなった。 座位が不安定な方はウォーターベッド側に乗り移った際、ベッドの面がフワフワで柔らかく、急に座位が不安定となり、支えもより必要となる。	

【デイ会：第3木曜日に開催】

デイ会議事録　　令和3年4月22日
参加者：町田、土居内、田井、宮上、近澤、渡邊、渋谷、多田
開催時間：17：30～18：30

議題1　研修1ヶ月後の目標達成と課題

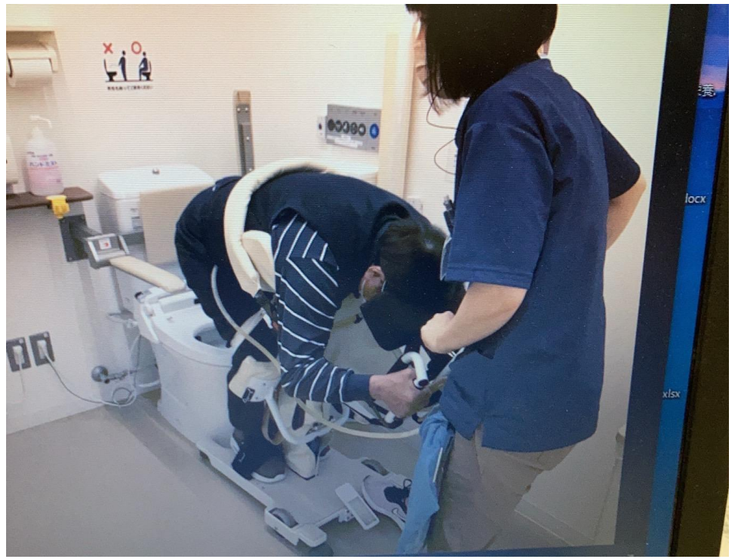
課題：業務のルール、仕組み作りと、見える化について

・スタンディングリフトの導入について
・利用者へのケアの時の声掛けの仕方を考える　➡　安心できるよう
・介助方法の職員間での伝達、共有　➡　インプットとアウトプット
・人それぞれ方法や不安に違いがある　➡　スタッフに合わせた介助方法がある
・統一した介助方法を実施できるようにするには　➡　再現性
・介助面での個々のできるできないを共有する　➡　リスク管理
・各種マニュアル作成、更新　➡　標準化
・介助する場面ごとの環境の違いを考え、リスクを確認をする　➡　使用する場面に応じたリスク管理
・自宅での生活が送れるよう生活面やその動作の評価をリハ職員と介護職員が一緒に行う　➡　協業
・自身の技術以上の無理をしない　➡　リスク管理
・職員同士のコミュニケーションが重要　➡　リスク管理・事故防止
・ヒヤリハットを意識して毎日あげる　➡　課題の見える化
・介護スタッフとリハスタッフで、利用者さんと立ち上がりの練習が出来たことが自信につながった。
・介助方法に自信がない、技術的にできない場合は、リハスタッフと一緒に介入する　➡　リスク管理

【利用者のアセスメントプランニング体制】

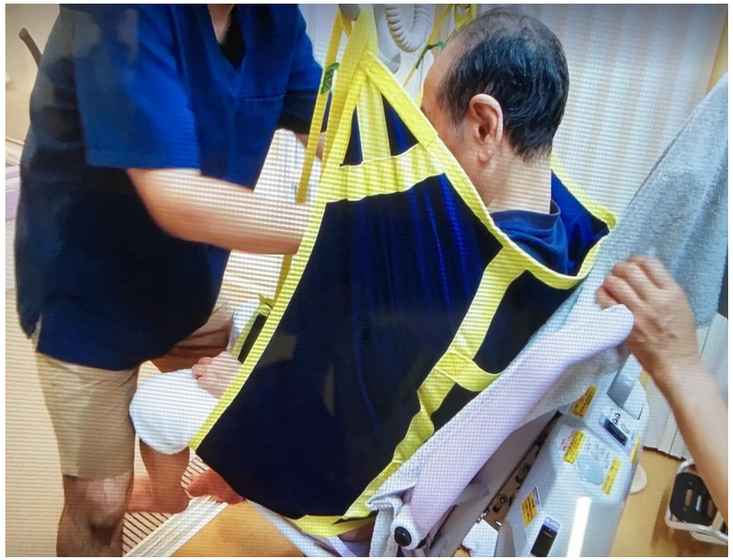
	流れ	担当
基本の流れ	・利用者ごと定められたサービス計画の期間に沿って実施 ・事業所としては毎月評価を行う	
	利用者が自宅でどのように動いているか、介助をしているかを把握 ・送迎時など家族から在宅での様子を聴く等して把握する ↓ ・利用中、動作や介助方法を確認し、在宅での介護負担軽減につなげる ・利用者自身にも伝え共有する ↓ ・変更点があればプランを修正、ケアマネに報告	セラピストが主に評価を行う、実際の場面での状況を確認
随時対応	介助方法など実施が難しい場合、リスクマネジメントの流れ同様に随時、報告（朝夕の送り等） ・報告 ↓ ・対応策検討と決定（セラピスト介入） ↓ ・報告職員 ↓ ・全職員へ周知 ↓ ・必要に応じて家族、ケアマネへ報告	セラピストが主に評価を行う、実際の場面での状況を確認

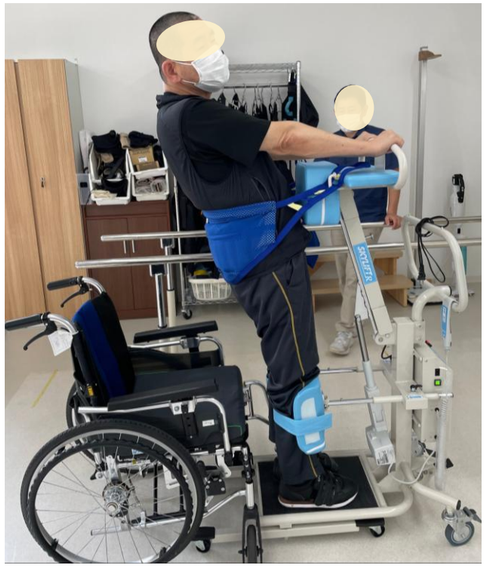
【セラピストによるアセスメント・個別機能訓練】



①立位や歩行など移動に介助が必要な方
・個別リハビリ場面でのリスク管理と負担軽減、業務効率化
・ベッド上での徒手療法や他動運動の軽減とADLへの介入が可能
②自立度が高い方
・利用者の心身のリラクゼーションと過剰な努力動作による過緊張の軽減
・抗重力姿勢での静的、動的、能動的なリハビリテーション

※安定安心でリスク低減　　※再現性の高い方法





【介護・リハビリ】

【通所介護計画書】

作成日: 令和 6年 7月 16日
前回作成日: 令和 6年 1月 25日
初回作成日: 令和 4年 6月 14日

性別 男性
介護認定 要介護4
看護 | 介護 | 機能訓練 | 相談員
障害高齢者の日常生活自立度: B2
認知症高齢者の日常生活自立度: 自立
職種:介護福祉士

利用者本人の希望
今まで通りの生活を続けていきたい。

家族の希望
必要なサービスを利用して今の生活を続けてほしい。

通所介護利用までの経緯
令和3年11月19日急性大動脈解離にて医療センターへ入院。術後脊髄梗塞で対麻痺発症される。リハビリ目的にてすこやかな杜に転院。自宅退院後通所介護サービス開始となる。

利用者本人の社会参加の状況
定期的に通所介護を利用することができる。

利用者の居宅の環境
家族と同居。
寝具にベットを利用している。
自宅内で車椅子を使用している。
屋外を移動する時には車椅子を使用している。
玄関段差昇降機、スロープ使用。

健康状態
急性大動脈解離

ケアの上での医学的リスク・留意事項
血圧変動、褥瘡などの傷の悪化に注意

長期目標	令和 6年 8月 ～ 令和 7年 7月	健康管理が行え、病状の悪化なく過ごすことができる 可能な限り自立した生活が実施できる
短期目標	令和 6年 8月 ～ 令和 7年 1月	自宅で転倒なく安全に移乗動作や生活が実施できる 通所介護で定期的な外出や入浴が実施できる

	目的とケアの提供内容・方針
①	目標:健康管理ができ生活が維持できる ケア:バイタルチェック、食事や水分摂取量の確認、全身状態の確認、褥瘡処置、パウチ交換 令和 6年 8月 1日 ～ 令和 7年 1月 31日
②	目標:入浴が安全に実施できる ケア:可能な範囲はご自身で洗体洗身動作を実施、リフト使用し安全な移乗、皮膚状態の確認 令和 6年 8月 1日 ～ 令和 7年 1月 31日
③	目標:残存機能の低下を予防する ケア:マシン運動や集団体操を実施 令和 6年 8月 1日 ～ 令和 7年 1月 31日
④	目標:移乗動作が安全に行える ケア:個別機能訓練を実施(詳細は個別機能訓練を参照) 令和 6年 8月 1日 ～ 令和 7年 1月 31日
⑤	

迎え(有 ・ 無)　送り(有 ・ 無)
通所曜日　火木

プログラム(一日の流れ)

(予定時間)	(サービス内容)
09:00 ～ 09:30	健康チェック(バイタル測定)・水分補給
09:30 ～ 11:40	入浴・マシン運動・机上課題・脳リハビリ・個別機能訓練
11:50 ～ 12:00	健康体操・口腔体操
12:00 ～ 13:00	昼食
13:00 ～ 14:30	入浴・マシン運動・机上課題・脳リハビリ・個別機能訓練
14:30 ～ 14:40	健康体操・口腔体操
14:40 ～ 15:00	おやつ・水分補給
15:00 ～ 16:00	マシン運動・机上課題・脳リハビリ・個別機能訓練

区分: 7-8(7時間0分)

上記計画内容の説明を受け、同意し、計画書を受領しました。

特記事項

上記計画書に基づきサービスの説明を行い、同意いただきました。
管理者 土居内 佳奈

通所介護:デイサービスセンター イロアイ
〒 780-8061　住所 高知県高知市朝倉甲273
事業所番号:3970107011　Tel. 088-881-4387　Fax. 088-881-4388

【個別機能訓練計画書】

作成日: 令和 6年 7月 30日
前回作成日: 令和 6年 4月 18日
初回作成日: 令和 5年 1月 24日

性別 男性
要介護度 要介護4
計画作成者: 長
職種: 作業療法士
障害高齢者の日常生活自立度: B2
認知症高齢者の日常生活自立度: 自立

利用者本人の希望
家族の負担をかけずに生活していきたい。

家族の希望
無理なく少しずつリハビリをして、元気に過ごしてほしい。

利用者本人の社会参加の状況
通所介護を定期的に利用っされている

利用者の居宅の環境
マンションに居住しており自宅階までエレベーター。
自宅内で電動車椅子を使用している。
屋外を移動する時には電動車椅子を使用している。
移乗は困難であり、リフトを使用している。
寝具にベットを利用している。

病名: 悪性リンパ腫　発症日・受傷日:2020/10/15　直近の入院日:2020/10/15　直近の退院日:2021/04/26

入院経過
悪性リンパ腫で入院中に後方固定術など手術や化学療法を実施。治療、リハビリを経て、令和3年4月26日に自宅退院。在宅では訪問看護やリハビリなどのサービスを利用。

合併疾患・コントロール状態
高血圧症,高尿酸血症,慢性尿路感染症,不眠症

機能訓練実施上の留意事項
急激な血圧変動や胸部症状の出現、転倒に注意が必要。

機能訓練の短期目標(令和 6年 8月 1日～令和 6年 10月 31日)
(参加) 電動車椅子での座位保持や操作で安全に移動できる
(活動) 体位変換や基本動作、ボードでの移乗がご自身で安全に行える。
リフトを使用して入浴できる。
(機能) 上下肢、体幹の可動域や筋力の維持、向上。
座位バランスの向上。

機能訓練の長期目標(令和 6年 8月 1日～令和 6年 12月 31日)
(参加) 散歩や外出をし、気分転換が図れ穏やかに過ごす事が出来る
(活動) スタンディングリフトを使用して、移動や入浴・排泄動作ができる。
(機能) 上下肢、体幹の可動域や筋力の向上。柔軟性の維持。

	プログラム内容 (立案者: 黒川梓乃)	留意点	頻度	時間	主な実施者
①	全身の可動域や筋力トレーニングなどの機能訓練やマシン運動を実施	急激な血圧変動、転倒、痛みの出現	週3回	3分	作業療法士
②	坐位でのバランス練習を実施し、転倒を防止します。	急激な血圧変動、転倒、痛みの出現	週3回	3分	作業療法士
③	基本動作練習や移乗動作練習を実施し、安全な移乗動作獲得を目指して実施します。	急激な血圧変動、転倒、痛みの出現	週3回	3分	作業療法士
④	福祉用具を用いてトイレ移乗練習を実施します。	急激な血圧変動、転倒、痛みの出現	週3回	3分	作業療法士

利用者本人・家族等がサービス利用時間以外に実施すること
自宅で出来る自主トレーニングの指導、助言を行い実施していただく。

特記事項

看護 | 介護 | 機能訓練 | 相談員

事業所: 居宅介護支援事業所　まろ
ケアプラン作成者: 澤田　理奈 様
上記計画書に基づきサービスの説明を行い、同意いただきました。

通所介護: デイサービスセンター イロアイ
事業所番号: 3970107011
〒780-8061 高知県高知市朝倉甲273
tel: 088-881-4387 fax:088-881-4388

【職員教育】

	教育目標	実施方法
計画	ノーリフティングの目的と必要性を理解でき、必要なスキルが身に付く、設備を積極的に活用でき、利用者へのケアとリハビリテーションの質向上を図る。	毎月2回 （第2木・第4） 業務後1時間
セラピスト	限られた時間で利用者個別に効果が得られるよう、機器を使用したリハビリテーションがどのように利用者の心身の機能維持向上に効果があるのか、セラピストが代わっても同じように実施できること、セラピストの負担軽減が図れることを理解し、積極的に機器を活用できる。また、自宅や生活場面で効果が出るよう介護・看護と協働（下支え）し、生活介助場面への介入と同時に、リハビリテーションに必要な広い視点が持てることを目指す。	
介護・看護	利用者の在宅生活が持続できるよう、また限られた時間内で質の高いケアが行えるよう、機器を積極的に活用でき在宅でも使用してもらえるよう、実際の介助場面での実践を積み、利用者個別に応用する能力を身に付けることで、自身の負担軽減が図れるようことを目指す。	
内容	・自身の身体の使い方 ・クッションや車椅子など使用しての姿勢管理 ・シート、グローブ等、福祉用具を使用した介助方法 ・ボードやリフト等を使用した移乗方法 ・アウトプットできるようにする ・問題解決力を身に着ける	

【内部研修】

【まとめ】

開業当初より、ノーリフティングポリシーの考え方をベースに、デイサービスおける「環境設備」、「業務内容」、「職員教育」を整えてきた。

ケアの側面からは、介護職とリハ職の繋がりを、現場レベルで自然に実践できるよう、職員の働き方にかかわらず学べる、教育プログラムと、仕組み作りを構築したい。

労働安全衛生の側面からも、腰痛予防だけではなく、心身のリスク管理及び事故の防止のため、「無理をしない」、「無理をさせない」環境と仕組みを、構築したい。

組織として、「職員」と「利用者」、双方の安心と安全を担保するためには、「6S」、「標準化」、「俗人化の防止」が重要であり、どこまで人材と業務に落とし込むことができるのか」が課題である。